



(I) IMF-GATT 体制

■ 国際経済体制の変容

世界恐慌をきっかけに、主要各国が独自の経済圏を作り、自国を守ろうとした。=[¹]
その結果、貿易は縮小し、ブロック間の対立が激化 ⇒ 第二次世界大戦へとつながっていく

この反省を生かし、為替の安定と自由貿易主義を目指す。

新たな国際通貨体制・経済体制をつくらう！ アメリカのブレトンウッズに集結

= 1944 [²]

戦後の国際経済体制は二本柱

通貨体制：[³

](国際通貨基金)

貿易体制：[⁴

](関税と貿易に関する一般協定)

★ブレトンウッズ体制とは = ドルを基軸通貨とする[⁵

]※2

① IMF(国際通貨基金)の設立

目的 (i) 為替の安定… 固定相場制 (1ドル= _____ 円で固定) = 日本的には円安ドル高

→ 世界の通貨は全てドル基準。アメリカ中心に世界経済が回っていく。

(ii) 為替の自由化 … 為替制限の撤廃。どんどん取引しよう

(iii) 国際収支の安定 … 赤字の国に対して短期融資を実施。

日本の輸出有利
→ 高度経済成長を支える

② [⁶ (国際復興開発銀行)]の設立

目的 戦争で被害に遭った国の復興、途上国開発のための長期融資。通称世界銀行とも呼ばれる。

しかし… アメリカの国際収支が悪化し、ドルへの不安が高まる = アメリカ自滅の危機

1969 [⁷]創設… 外貨が不足した際に特別な通貨 (= 第三の通貨) を IMF が配分

1971.8 [⁸] … ニクソン大統領が金とドルの交換を停止。一旦固定相場制も廃止。
日本の高度経済成長を止める要因にもなる。

[米]輸出有利に誘導し
経済の復活を狙う

1971.11 [⁹]… ドルの価値を切り下げ、固定相場制の再構築を試みる。

→ 1ドル _____ 円になる。= 以前と比べ円高ドル安

それでもアメリカの経済悪化は止まらず。米基準の固定相場制はもう限界。

1973 先進国が変動相場制に移行。= **ブレトンウッズ体制崩壊**

1976 [¹⁰] … 変動相場制が正式に承認。

[米]輸出有利に
[日]輸出不利に

1985 [¹¹]… アメリカが抱えた双子の赤字(財政赤字と貿易赤字)を解消するため

→ [¹²]が為替に介入し円高ドル安に誘導

→ 日本は円高になり輸出不調 → 国内の金融緩和(低金利政策) ⇒ バブル景気

1987 **ルーブル合意** … プラザ合意後の過度なドル安を調整し、為替相場の安定を目的とした G7 合意
→ 十分にドル安を止めることはできず、日本の低金利政策も継続

+ α 国際経済における先進国

上に挙げた **G5(米・西独・英・仏・日)** から始まった先進国財務省・中央銀行総裁会議は、翌年以降に [] [] を加え **G7** となった。また、1975 年から開催されている先進国首脳会議は **サミット** と呼ばれ、G7(EU 首脳も含む)にロシアを含めた **G8** サミットと呼ばれるようになった。

2008 年の金融危機を契機に、サミット参加国の G8 に台頭してきた新興国を加え、**G20** として構成された。現在は国際経済の枠組みを議論する場として重視される。

G7
米・独・英・仏
日・伊・加

G8 露

G20 インド・南アフリカ
EU・アルゼンチン・メキシコ
中国・韓国・豪州・インドネシア
ブラジル・サウジアラビア・トルコ

(Ⅱ) 国際貿易体制

1947 **GATT** (関税および貿易に関する一般協定)

[目的] 戦後の自由貿易体制の確立

- ・ **自由**：関税の引き下げ、関税以外の制限(非関税障壁)の撤廃
- ・ **無差別**：[¹³](最も有利な条件をすべての国に対して採用する)
：[¹⁴](自国民と同様の条件を相手国にも適用する)
- ・ **多角**：貿易上の問題は、2 カ国間ではなく 多各国間の交渉(=¹⁵)で解決する。



交渉(ラウンド)

- ① **ケネディラウンド**(1964～67) 62 カ国・地域 … 鉱工業品関税の一括引き下げ
- ② **東京ラウンド**(1973～79) 102 カ国・地域 … ケネディラウンドとほぼ同様の内容
- ③ [¹⁶]ラウンド(1986～94) 123 カ国・地域
 - ・ 著作権、特許権などの[¹⁷]について新たなルールを確立
 - ・ 農産物の非関税障壁を撤廃
 - ・ 農産物については[¹⁸](最低輸入量)を負わせるよう合意
 - ・ GATT を引き継ぐ正式な機関の設立に合意 →1995 [¹⁹](世界貿易機関)設立

1995 ¹⁹ (世界貿易機関) … GATT を拡大・強化する形で設立

★T は trade(貿易)の T!

- ④ **ドーハラウンド** (2001～*) 153 カ国 ※合意に至らず中断中
複数国での交渉が、意見対立によって難航する

交渉が難航するなら、個別で協力したい国と協定結べばいいのではという流れに変化していく

- ・ [²⁰](自由貿易協定)=地域や二カ国間で関税などの自由化
- ・ [²¹](経済連携協定)=ヒトの移動なども含め、より幅広い経済関係の強化

EPA(経済連携協定)

* 投資規制撤廃

* 各分野の協力

FTA(自由貿易協定)

* 物の関税を削減・撤廃

* サービス貿易の障壁等を削減・撤廃

* 人的交流の拡大

* 知的財産制度、
競争政策の調和

この動きの一環が地域経済統合! 近隣の国や地域で協定を結び、経済協力をする流れが世界中に広がる。

※日本はもともと EPA に前向きでなかったが、2002 年のシンガポールを皮切りに多くの国と締結している



(I) IMF-GATT 体制

■ 国際経済体制の変容

世界恐慌をきっかけに、主要各国が独自の経済圏を作り、自国を守ろうとした。＝^[1] **ブロック経済**]
その結果、貿易は縮小し、ブロック間の対立が激化 ⇒ 第二次世界大戦へとつながっていく

この反省を生かし、為替の安定と自由貿易主義を目指す。

新たな国際通貨体制・経済体制をつくろう！ アメリカのブレトンウッズに集結

＝ 1944 [^[2] **ブレトンウッズ協定**]

戦後の国際経済体制は二本柱

通貨体制：^[3] **IMF**](国際通貨基金)

貿易体制：^[4] **GATT**](関税と貿易に関する一般協定)

★ブレトンウッズ体制とは ＝ ドルを基軸通貨とする^[5] **金ドル本位制**]

① **IMF(国際通貨基金)**の設立

目的 (i) 為替の安定・・・ 固定相場制 (1ドル＝**360**円で固定) ＝ 日本的には円安ドル高

→ 世界の通貨は全てドル基準。アメリカ中心に世界経済が回っていく。

(ii) 為替の自由化・・・ 為替制限の撤廃。どんどん取引しよう

(iii) 国際収支の安定・・・ 赤字の国に対して短期融資を実施。

日本の輸出有利
→ 高度経済成長を支える

② [^[6] **IBRD (国際復興開発銀行)**]の設立

目的 戦争で被害に遭った国の復興、途上国開発のための長期融資。通称世界銀行とも呼ばれる。

しかし・・・ アメリカの国際収支が悪化し、ドルへの不安が高まる ＝ アメリカ自滅の危機

1969 [^[7] **SDR**]創設・・・外貨が不足した際に特別な通貨(＝第三の通貨)を IMF が配分

1971.8 [^[8] **ニクソン・ショック**]・・・ ニクソン大統領が金とドルの交換を停止。一旦固定相場制も廃止。

日本の高度経済成長を止める要因にもなる。

【米】輸出有利に誘導し
経済の復活を狙う

1971.11 [^[9] **スミソニアン協定**]・・・ ドルの価値を切り下げ、固定相場制の再構築を試みる。

→ 1ドル**308**円になる。＝以前と比べ**円高ドル安**

それでもアメリカの経済悪化は止まらず。米基準の固定相場制はもう限界。

1973 先進国が変動相場制に移行。＝ **ブレトンウッズ体制崩壊**

1976 [^[10] **キングストン合意**]・・・ 変動相場制が正式に承認。

【米】輸出有利に
【日】輸出不利に

1985 [^[11] **プラザ合意**]・・・アメリカが抱えた双子の赤字(財政赤字と貿易赤字)を解消するため

→ [^[12] **G5**]が為替に介入し**円高ドル安**に誘導

→ 日本は円高になり輸出不調→国内の金融緩和(低金利政策)⇒バブル景気

1987 **ルーブル合意**・・・プラザ合意後の過度なドル安を調整し、為替相場の安定を目的とした G7 合意

→十分にドル安を止めることはできず、日本の低金利政策も継続

+ α 国際経済における先進国

上に挙げた **G5(米・西独・英・仏・日)** から始まった先進国財務省・中央銀行総裁会議は、翌年以降に [**カナダ**] [**イタリア**] を加え **G7** となった。また、1975 年から開催されている先進国首脳会議は **サミット** と呼ばれ、G7(EU 首脳も含む)にロシアを含めた **G8** サミットと呼ばれるようになった。

2008 年の金融危機を契機に、サミット参加国の G8 に台頭してきた新興国を加え、**G20** として構成された。現在は国際経済の枠組みを議論する場として重視される。

G7
米・独・英・仏
日・伊・加

G8 露

G20 インド・南アフリカ
EU・アルゼンチン・メキシコ
中国・韓国・豪州・インドネシア
ブラジル・サウジアラビア・トルコ

(Ⅱ) 国際貿易体制

1947 **GATT** (関税および貿易に関する一般協定)

[目的] 戦後の自由貿易体制の確立

- ・ **自由** : 関税の引き下げ、関税以外の制限(非関税障壁)の撤廃
- ・ **無差別** : [¹³ **最恵国待遇**] (最も有利な条件をすべての国に対して採用する)
: [¹⁴ **内国民待遇**] (自国民と同様の条件を相手国にも適用する)
- ・ **多角** : 貿易上の問題は、2 カ国間ではなく 多各国間の交渉 (= ¹⁵ **ラウンド**) で解決する。



交渉(ラウンド)

- ① ケネディラウンド(1964～67) 62 カ国・地域 … 鉱工業品関税の一括引き下げ
- ② 東京ラウンド(1973～79) 102 カ国・地域 … ケネディラウンドとほぼ同様の内容
- ③ [¹⁶ **ウルグアイ**] ラウンド(1986～94) 123 カ国・地域
 - ・ 著作権、特許権などの [¹⁷ **知的財産権**] について新たなルールを確立
 - ・ 農産物の非関税障壁を撤廃
 - ・ 農産物については [¹⁸ **ミニマム・アクセス**] (最低輸入量) を負わせるよう合意
 - ・ GATT を引き継ぐ正式な機関の設立に合意 → 1995 [¹⁹ **WTO**] (世界貿易機関) 設立

1995 ¹⁹ **WTO** (世界貿易機関) … GATT を拡大・強化する形で設立

★T は trade(貿易)の T !

- ④ ドーハララウンド (2001～*) 153 カ国 ※合意に至らず中断中
複数国での交渉が、意見対立によって難航する

交渉が難航するなら、個別で協力したい国と協定結べばいいのではという流れに変化していく

- ・ [²⁰ **FTA**] (自由貿易協定) = 地域や二カ国間で関税などの自由化 **Free Trade**
- ・ [²¹ **EPA**] (経済連携協定) = ヒトの移動なども含め、より幅広い経済関係の強化 **Economic Partnership**

EPA(経済連携協定)

* 投資規制撤廃

* 各分野の協力

FTA(自由貿易協定)

* 物の関税を削減・撤廃

* サービス貿易の障壁等を削減・撤廃

* 人的交流の拡大

* 知的財産制度、
競争政策の調和

この動きの一環が地域経済統合！近隣の国や地域で協定を結び、経済協力をする流れが世界中に広がる。

※日本はもともと EPA に前向きでなかったが、2002 年のシンガポールを皮切りに多くの国と締結している